

スリム
ヨコハマ 3 R 夢プランの推進について

1 平成 25 年度の実績（推計）について

『25 年度目標』
21 年度比 3 % 以上削減

(1) ごみと資源の総量

表 1 平成25年度のごみと資源の総量（推計値）

【単位：トン】

	ごみと資源の総量						
		家庭系			事業系		
			ごみ量	資源化量 ^{※1}		ごみ量	資源化量 ^{※2}
25年度推計	1,255,000	899,300	591,580	307,720	355,700	309,640	46,060
21年度差	▲ 20,444 (▲1.6%)	▲ 33,533 (▲3.6%)	▲ 19,719 (▲3.2%)	▲ 13,813 (▲4.3%)	13,089 (3.8%)	▲ 8,789 (▲2.8%)	21,877 (90.5%)
21年度実績 (基準年度)	1,275,444	932,833	611,299	321,533	342,611	318,429	24,183

※1 家庭系の資源化量は、行政が回収した資源化量と資源集団回収量の合計です。
 ※2 事業系の資源化量は、学校給食残さの資源化量と事業者が生ごみやせん定枝を資源化した量の合計です。
 ※ () 内数値は、21年度との比を示しています。
 ※ 平成25年度（推計値）は、10トン未満四捨五入しています。

【説明】

- 「全体のごみと資源の総量」は、1.6%減少しました。
- 「家庭系のごみと資源の総量」は、3.6%減少しました。これは、各区で取り組んでいる生ごみの水切りやせん定枝や刈草の乾燥、マイバッグ・マイボトルの取組などの効果の表れであると考えています。
- 「事業系のごみと資源の総量」は、3.8%増加しました。ごみ量については、事業所への立入調査や焼却工場での搬入物検査で分別徹底を図ったことなどにより減少していますが、木くずの資源化施設が増えたことにより、せん定枝などの木くずのリサイクルが進んだことなどが総量増加の要因と考えています。

『25 年度目標』
21 年度比 18% 以上削減

(2) ごみ処理に伴い排出される温室効果ガス

表 2 平成25年度の温室効果ガス排出量（推計値）

【単位：万トン(CO2換算)】

	温室効果ガス排出量	温室効果ガス排出量（補正值 [※] ）
25年度推計	20.7	23.1
21年度差	▲ 7.5 (▲26.6%)	▲ 5.1 (▲18.1%)
21年度実績 (基準年度)	28.2	

※ 温室効果ガスの算出に用いている「電力の排出係数」が大幅に上昇していることから、この影響を除くために基準年度と同じ排出係数を用いて推計した値です。

【説明】

- 「温室効果ガス排出量」は、26.6%減少しました。
- 排出係数が増加した影響を除くため、基準年度である 21 年度の排出係数を用いて補正すると 18.1%の減少となります。

裏面あり

2 平成 26 年度の目標について

『26 年度目標』
21 年度比 3.5% 以上削減

(1) ごみと資源の総量

「ヨコハマ^{スリム}3R^{スリム}夢プラン」における削減目標は、基準年度である 21 年度に比べ、29 年度までに 5% 以上削減、37 年度までに 10% 以上削減することとしています。

26 年度の削減目標は、中長期的な削減目標を着実に達成するため、21 年度比 3.5% 以上削減としました。

『26 年度目標』
21 年度比 20% 以上削減

(2) ごみ処理に伴い排出される温室効果ガス

「ヨコハマ^{スリム}3R^{スリム}夢プラン」における削減目標は、基準年度である 21 年度に比べ、29 年度までに 25% 以上削減、37 年度までに 50% 以上削減することとしています。

26 年度の削減目標は、排出係数の変動による影響を踏まえ、基準年度である 21 年度の排出係数を用いた場合においても、20% 以上削減を目指します。

3 平成 26 年度の重点取組について

26 年度は、「ヨコハマ^{スリム}3R^{スリム}夢プラン第 2 期推進計画」の初年度であり、「^{スリム}3R^{スリム}夢は新たなステージへ」をキャッチフレーズに、次の取組に重点を置き、更なる 3R を推進します。

- ◎ 食品ロス・生ごみの削減に向けた取組の推進
- ◎ プラスチック類や古紙の分別徹底に向けた取組の推進
- ◎ 市民・事業者の皆さまへの分かりやすい情報提供の推進

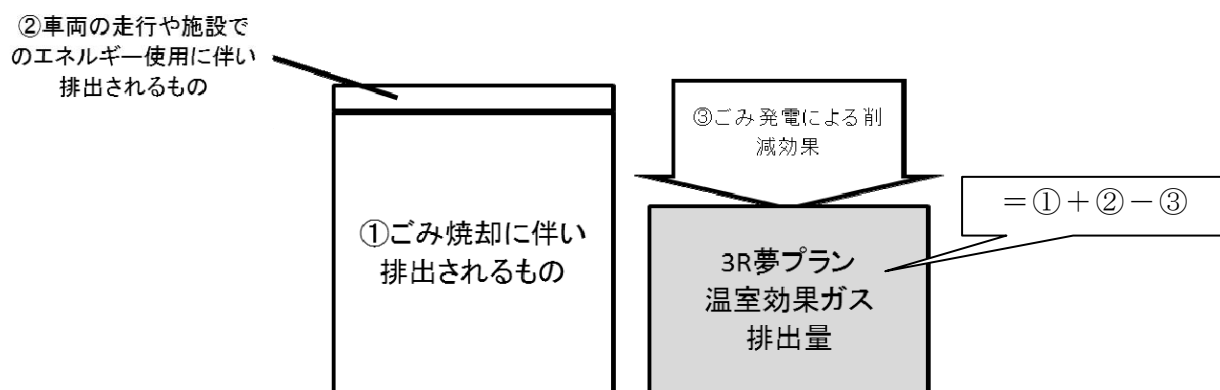


1 3R夢プラン 温室効果ガス排出量について

ごみ処理に伴い排出される温室効果ガス = ① + ② - ③

- ①：ごみの焼却に伴い排出されるもの
- ②：車両の走行や施設でのエネルギー使用に伴い排出されるもの
- ③：ごみ発電による削減効果* = 売電量 × 排出係数

※ ごみ発電した電力を電気事業者に売却することで、電気事業者はその分の発電量を減らし、発電に使う化石燃料を減らすことができるため、温室効果ガスの削減につながります。



< 排出係数とは・・・ >

1kWh の電力の発電にあたり排出される温室効果ガスの量をあらわしており、電気事業者の実績をもとに、毎年国から公表されます。

東京電力の排出係数は、基準年度である平成 21 年度には 0.418 (kg-CO₂/kWh) でしたが、原子力発電所事故以降、温室効果ガス排出量が多い火力発電が増えたため、平成 25 年度には 0.525 (kg-CO₂ / kWh) と大幅に上昇しています。

2 平成 25 年度 温室効果ガス排出量の状況について

- 「ごみの焼却に伴い排出される温室効果ガス」の大部分を占めるプラスチック類の焼却については、基準年度から比べると 10%程度の削減にとどまっています。
- 「車両の走行や施設でのエネルギー使用に伴い排出される温室効果ガス」は、基準年度から大きな変化はありません。
- 効率的な発電などによる売電量の増加や、東京電力の排出係数の急激な増加により、「ごみ発電による温室効果ガスの削減効果」は、大幅に増加しています。